

学生便覧 2023年度  
G2023-7-2

大学院 経営情報学研究科  
起業マネジメント専攻

# 中小企業診断士 国家資格

城西国際大学大学院経営情報学研究科には、「中小企業診断士の登録等及び試験に関する規則」及び「中小企業支援事業の実施に関する基準を定める省令」に基づき、中小企業診断士（経済産業大臣が登録する中小企業者に適切な経営の診断及び経営に関する助言をする者）を養成する機関として、中小企業診断士登録養成課程を開設している。

この課程では、経済産業省の指定した科目を全て単位修得した者に、中小企業診断士登録養成課程修了証明書を授与する。

#### 1. 登録養成課程指定科目の時間数

- (1) 経営診断Ⅰの演習時間は、13科目合計で274時間以上とする。
- (2) 経営診断Ⅰの実習時間は、2科目合計で134時間以上とする。
- (3) 経営診断Ⅱの演習時間は、6科目合計で94時間以上とする。
- (4) 経営診断Ⅱの実習時間は、3科目合計で214時間以上とする。

#### 2. カリキュラムについて

年度ごとに「登録養成課程カリキュラム一覧」を配布する。

#### 3. 登録養成課程の認定及び成績評価基準等

履修科目の単位認定要件は、出席時間数が90%以上の者で、かつ受講態度が良好な者とする。ただし、病気又は正当な理由による長期欠席の場合には、特に考慮されることがある。

#### 4. 登録養成課程の修了要件及び修了したことを証する書面の発行

総合審査委員会において、総合審査基準に基づく審査に合格した者で、運営委員会で認められた者を登録養成課程の修了した者と認定し中小企業診断士登録養成課程修了証明書を授与する。

#### 5. 学位の授与

登録養成課程を修了した者で、登録養成課程に2年以上在学し、所定の単位を修得、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査（本研究科の目的に応じ適当と認められるときは、特定の研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。）及び最終試験に合格した者に「経営情報学研究科起業マネジメント専攻修士課程修士（経営学）」の学位を授与する。

6. 特定の課題についての研究成果の審査を行う場合

大学院学則第 36 条第 2 項により、研究目的が特定の課題研究として適当と認められる場合は、特定の課題研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。その条件および審査基準を以下のように定める。

- (1) 対象者：中小企業診断士養成課程の在籍者で、フィールド調査についての経験のある者もしくはそれに相当する知識や経験を有する者が、入学後に指導教員と相談の上、5 月末日までに「特定の課題研究による学位申請」を申し込み、研究科委員会での承認を経て取り組むことが可能となる。特定の課題研究の継続が困難な場合には、申請取り下げ手続きにより「修士論文作成による学位申請」を認めることがある。
- (2) テーマ：特定の事業・事業者・組織の特定の経営課題に関するもの  
特定の経営課題を扱う報告書であり、調査内容はすべて公開される。審査のための透明性ならびに再現性は担保されなければならない。また、城西国際大学が推進する公正な研究活動を推進していく上で広く情報開示できるものでなければならない。
- (3) 審査基準：① 現地調査、インタビュー調査などを実施すること。  
② 特定の課題研究は、調査結果から導かれる経営助言や経営診断の適格性は科学的かつ論理的でなければならない。  
③ 調査により導出された結論は、学術研究にも寄与することが期待される。  
④ 研究の意義を十分理解し、研究成果の発展の可能性を認識しているかどうか。
- (4) その他の条件については、従来の修士論文の要領に準じる。

また、その場合の指導・留意点等は以下のとおりである。

学年	期間	発表会計画	留意点等
1 年次	入学時	『特定の課題研究報告書の計画案』の提出	特定の課題研究の計画案を基に、指導教員および副指導 2 名以上を決定
	前半	修士論文研究計画発表と同時期に特定課題研究計画を発表する	特定の課題研究の必要性、問題設定の妥当性の審査を行う
	後半	調査研究中間発表	研究方法の選択、研究方法実行の適格性の審査
2 年次	前半	報告書作成計画発表	研究の内容、章立て、論述の流れは適切か 調査の計画は適切か
	後半	特定の課題研究報告書の概要発表	調査方法、調査資料の妥当性、信頼性、量的に十分であるか。報告書作成能力の到達度

7. 特定の課題研究報告書の審査は主査および副査2名以上で行う。審査は以下の基準に従って行う。

客観性：研究事例の分析において、データや資料で客観性を担保しているか。

論理性：構成（目的、分析結果、結論）の論理が研究テーマに即して一貫しているか。形式

の妥当性：参考文献や引用、注が適切に提示されているか。注釈や図表が適切に標記しているか。論文の分量は適切か。

独自性：現地調査や関係者インタビューなどを行い、そこから得られたオリジナルのデータや情報に基づき、独自の分析や考察がなされているか。

応用性：実践的な有効性、発展性、改善への提言、他の研究課題への応用の可能性があるか。

## 科目配置表

科目名（必修科目）		時間数（コマ数）	単位数
予備研修	受講者の知識レベルの統一	14.0（8回）	
合計		14.0（8回）	

科目名・研修テーマ（経営診断Ⅰ）（必修科目）		時間数（コマ数）	単位数
演習-1	経営戦略論Ⅰ（経営戦略の形成）	22.75（13回）	2
演習-2	経営戦略論Ⅱ（経営計画の策定，計数マネジメント）	22.75（13回）	2
演習-3	マーケティング戦略論Ⅰ（マーケティング戦略・流通）	22.75（13回）	2
演習-4	マーケティング戦略論Ⅱ（マーケティング戦略・製造、製品開発戦略、ロジスティクス）	22.75（13回）	2
演習-5	人材マネジメント論（経営診断の進め方，人材マネジメント計画）	24.5（14回）	2
演習-6	財務・会計論（経営分析の進め方）	22.75（13回）	2
演習-7	生産マネジメント論Ⅰ（工場診断の進め方，現状分析の進め方）	22.75（13回）	2
演習-8	生産マネジメント論Ⅱ（生産戦略の考え方，製造システムの改善，管理システムの改善）	22.75（13回）	2
演習-9	店舗施設マネジメント論（マネジメントの進め方）	22.75（13回）	2
演習-10	経営情報論（情報化支援・流通業・製造業）	22.75（13回）	2
演習-11	*起業マネジメント基礎論Ⅱ、第2単元	12.25（7回）	2
	コミュニケーション論（思考法，プロセス）	22.75（13回）	
演習-11	*起業マネジメント基礎論Ⅰ、第1単元	14.0（8回）	2
	流通業経営診断	70.0（40回）	
実習-1	流通業経営診断	70.0（40回）	2
実習-2	製造業経営診断	70.0（40回）	2
演習-12	起業マネジメント基礎論Ⅰ（オリジナル科目）	8.75（5回）	2
演習-13	起業マネジメント演習Ⅰ（オリジナル科目）	45.5（26回）	4
合計		472.5	32

科目名・研修テーマ（経営診断Ⅱ）（必修科目）		時間数（コマ数）	単位数
演習-14	総合経営戦略（総合経営戦略）	22.75（13回）	2
演習-15	総合診断（流通業総合）（製造業総合）	24.5（14回）	2
演習-16	実務的助言Ⅰ（創業・ベンチャー支援，経営革新支援）	22.75（13回）	2
演習-17	実務的助言Ⅱ（企業再生・企業連携・国際化）	22.75（13回）	2
実習-3	経営戦略策定実習Ⅰ（経営戦略策定Ⅰ）	71.75（41回）	2
実習-4	経営戦略策定実習Ⅱ（経営戦略策定Ⅱ）	71.75（41回）	2
実習-5	経営総合ソリューション実習（経営総合ソリューション実習）	71.75（41回）	2
演習-18	起業マネジメント基礎論Ⅱ（オリジナル科目）	10.5（6回）	2
演習-19	起業マネジメント演習ⅡB（オリジナル科目）	45.5（26回）	4
合計		364.0	20
必修科目合計		850.5	52

科目名称（選択科目）		時間数（コマ数）	単位数
選択科目			
演習-20	要求仕様特論	22.75（13回）	2
演習-21	ITC プロセスガイドライン	22.75（13回）	2
演習-22	ケーススタディⅠ	22.75（13回）	2
演習-23	ケーススタディⅡ	22.75（13回）	2
演習-24	ケーススタディⅢ	22.75（13回）	2
選択科目合計		113.75	10
総合計		964.25	62

\* 必修科目は必ず履修しなければならない。

城西国際大学  
大学院経営情報学研究科  
研究科長 殿

特定の課題研究による学位申請の申し込み

1. 特定の課題研究テーマ
2. 特定の課題を研究する目的
3. 本研究により期待される成果

以上の理由から、特定の課題研究をお認めいただきますようお願い申し上げます。

年 月 日

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

城西国際大学  
大学院経営情報学研究科  
研究科長 殿

特定の課題研究による学位申請の取り消し申請

1. 特定の課題研究が困難となった理由
  
2. 修士論文作成に向けた今後の取り組みについて

以上の理由から、特定の課題研究を取り消し、修士論文作成による学位申請をお認めいただきますようお願い申し上げます。

年 月 日

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

学生申請後の指導教授による所見：(今後の論文作成に向けた指導教授所見)

以 上